ノ一形デアルくまたか(Fig. 2)ト云フノガ夫デアツテ、中助ハ裏面ニ於テ脱出外卷シテ居ルカラ、脱出ノ方向ハ前記ノモノトハ反對デアルガ、脱出シテ居ル點ニ於テハ同ジデアル。尤モコノくまたかニ於テ果シテ脱出シテ居ルカドウカガタヾ畫デ見タ丈ノ事ダカラ判然シナイノデ同書中ノ説明ヲ見ルト「葉中筋の先に鳥の爪に似たる鎌出る」トアリ多少理解ニ苦マザルヲ得ナイノデ、此ノ爪ガ果シテ何處カラ出テ居ルカニ就キ、東京美術學校出身デ版畫技術ニ造詣深イ古川龍夫氏ニ木版技術上ノ判定ヲ求メタ處ヤハリ葉尖ノ少シク手前デ葉裏カラ脱出シテ爪狀ヲ呈シテ居ル場合ヲ描出シタモノデアルコトガ判ツタ、サスレバ、脱離面ガ葉面ト葉裏トノ相違コソアレ、前記 *Codiæm spiralis* ト同一筆法デアル。然シ吾人ハ今日其實物ヲ見ル事ハ出來ナイガ、文政ノ昔ニハコンナモノモアツタモノト見エル。若シコレガ今尚現存スル事實トシテ何人カニヨリ報ゼラレヽバ實ニ面白イ事ト言ハズバナルマイ。

（久内淸孝）

○ひえすげノ學名

ひえすげ（一名まつまへすげ）ノ學名ト云ヘバ古クハ *Carex longerostrata* C. A. MEYER ヲ用キテ誰シモ怪マナカツタモノデアル。所ガ近年ニ至ツテ京都帝國大學ノ大井次三郎氏ハひえすげト呼ンデキルモノノ中ニ 2 ツノ形ガ含マレテキル事ヲ發見セラレタ。卽チ一ハ根莖ガ地下ヲ長ク匐フノミデ匐枝ヲ決シテ出サヌ形、他ハ根莖ガ短ク地下を匐ヒ匐枝ヲ出ス形デアツテ前者ハ *Carex longerostrata* C. A. MEYER 其物ニ該當シ後者ハマダ名ノ無イ新種デアルトノ結論カラ氏ハ後者ニ *Carex fusco-fibrosa* OHWI ト云フ新學名ヲ命ジテ 1931 年ニ學界ニ發表シタ[1]。其際ひえすげナル和名ハ後者ニ殘サレタ。此論文ガ出版サレテ間モナク私ハ南滿洲ノすげ類ノ研究ヲ始メタガ、ひえすげノ問題ニ就テハ全ク大井氏ノ卓見ニ敬服シタノデアツタ。私ガ此說ニ贊意ヲ表シタ理由ハ單ニ根莖ノ點ノミカラデハナク其他ニモ可ナリ重要ナ相違ノアル事ニ氣付イタカラデアツタ。但シ大井氏ガひえすげヲ新種ト認メラレタ點ニ就テハ異論ガアツタ。ト云フノハ私ガ滿洲ノすげ類ト日本ノすげ類トヲ比較研究シテキル際偶然ニモ中井博士ガ 1922 年ニ *Spirostachyæ* 節ノ一種トシテ發表サレテキルちうぜんすげ (*Carex tenuistachya* NAKAI) ガひえすげト全ク同一デアル事ヲ發見シタカラデアル[2]。ツマリ換言スレバひえすげノ學名トシテハ *Carex fusco-fibrosa* OHWI ヨリ以前ニ發表サレタ *Carex tenuistachya* NAKAI ヲ起用スベキ事ニナツタカラデアル。私ガすげ類ヲ研究シテキル最中ニ北海道帝國大學ノ秋山茂雄氏ノ大著 Conspectus Caricum Japonicarum ガ出版セラレタガ私ハ其書中ニ於テ *Carex fusco-fibrosa* OHWI ガ *Carex longerostrata* C. A. MEYER ノ異名中ニ加ヘラレひえすげノ學名トシテ矢張リ *Carex longerostrata* C. A. MEYER ガ生キテキルノヲ見出ダシタノデアル[3]。秋山氏ハ勿論或理由カラ此兩種ガ不可分ノ種類デアルトノ結論ニ達セラレタノデアルガ氏ノ著ニハ其理由トスル所ヲ一言モ述ベテ居ラレヌタメ私ハ氏ノ說ニ俄ニ從フ事ガ出來ナカツタ。從ツテ其後私ガ自分ノ研究結果ヲ「植物學雜誌」ニ發表シタ際ニモ所信ヲマゲズひえすげノ學名ニハ *Carex tenuistachya* NAKAI ヲ用キテ置イタノデアル。[4] ソシテ同時ニ鱗片ノ色ノ淡イ變種うすいろひえすげ (var. *pallida* KITAGAWA) ヲ發表シタノデアツタ。

所ガ最近ニ至ツテ大井氏ハ「植物分類、地理」誌上ニ於テ再ビひえすげノ問題ヲ論ゼラレ、秋山氏ハ北海道札幌附近ニ於テハひえすげノ根莖ニ匍枝ノ出ルモノト出ヌモノトガ共ニ生育シテキテ決シテ別種デハナイトノ結論ヲ得ラレタガ北鮮ニ於ケル自然狀態ヨリ考ヘルト矢張リコノ兩形ハ全クノ同種ト見ルヨリ變種ノ程度ニ分ケテ置ク方ガヨイト思ハレルカラ匍枝ノ出ル形ヲ *Carex longerostrata* C. A. MEYER ノ變種ト見做シ *Carex longerostrata* C. A. MEYER var. *pallida* (KITAGAWA) OHWI トスル旨ヲ述ベテ居ラレル[5]。卽チ大井氏ハ秋山氏ノ所說ヲ尊重シ自己ノ說ヲ半バ秋山氏ノ說ニ近ヅケラレタワケデアル。變種名トシテ pallida ヲ用キタノハうすいろひえすげノ學名ガ變種名トシテハ最初ノモノデアル爲デ此新組合セノ學名ハ正確ニ云ヘバうすいろひえすげノモノデアリひえすげヲうすいろひえすげカラ嚴密ニ分ケルトスレバ別ニ變種以下ノ格トシテ f. *tenuistachya* トカ lusus *tenuistacha* トカ名ヲ付ケルカ又ハうすいろひえすげト同格ニ取扱ツテ *Carex longerostrata* C. A. MEYER ノ變種トシテ var. *tenuistachya* トセネバナラヌ事ニナル。

サテ、私ハ今夏中井先生ノ御伴ヲシテ朝鮮咸鏡南道ノ北水白山ニ登ツタガ其際 *Carex longerostrata* C. A. MEYER ノ記載ニ符合スルすげガ針葉樹林ノ下草トシテ落葉ノ中カラ蔭地植物ラシイ弱々シイ風情ヲ示シテ多數生エ出デテキルノニ遭遇シ、ヨク其生態及形態ヲ觀察スル事ガ出來タ。ソシテ其結果私ノ以前ニ發表シタ考ヘガ結局依然トシテ最モ妥當ナノデハナイカト云フ感ヲ愈々深クシタノデアル。前ニモ述ベタ如ク私ガ *Carex longerostrata* C. A. MEYER トひえすげトヲ別種ニシタ理由ハ唯單ニ根莖ノ狀態ノミニ關シテキルノデハナク他ニ別ノ特徵ヲ摑ンデキタカラデ、此特徵ノ差異ガ益々固定的ナモノデアル事ヲ今回ノ旅行ニ於テ確メ得タノデアツタ。唯玆ニ御斷リセネバナラヌノハ私ハ *Carex longerostrata* C. A. MEYER ノ Type locality デアル「カムチャッカ」ノ標本ヲ見ル機會ヲマダ持タヌ事デ記載並ビニ寫生圖ト其ニ符合スル白頭山產及前記北水白山附近產ノ標本カラ判斷シテキル事ヲ記シテ置ク。私ノ見ル所デハ兩者ニハ次ノ如キ差異ガアルノデアル。

根莖ハ長ク地下ヲ匍匐シ往々分岐スルガ決シテ匍枝ヲ出サヌ。根莖上ニハ古イ枯葉ガ淡褐色ヲ呈シテ殘リコレヲ密ニ蔽フテキル。囊包ハ倒卵形、初メ疎ニ細毛ヲ被ツテキルガ後ニ至リ殆ンド無毛平滑トナル。堅果ハ倒卵狀長楕圓形デアル。花柱ノ基部ハ眞直デアル。

きたひえすげ (新稱) (**Carex longerostrata** C. A. MEYER)

根莖ハ短ク稍株狀ヲナシ匍枝ヲ出ス。根莖上ニハ古イ枯葉ガ纖細狀ニ分裂シ黑褐色ヲ呈シテ殘リコレヲ密ニ蔽フテキル。囊包ハ廣倒卵形乃至極メテ廣イ倒卵形ヲナシ球形ニ近ク、成熟後モ明ラカニ細毛ヲ有スル。堅果ハ廣倒卵形乃至極メテ廣イ倒卵形ヲナシ獨樂形ニ近イ。花柱ノ基部ハ半バ螺旋狀ニ屈曲スル。

ひえすげ (**Carex tenuistachya** NAKAI)

玆ニ殘ル問題ハ北海道ニ於テ秋山氏ガ觀察セラレタ匍枝ヲ出サヌ種類ガ果シテ私共ノ云フ *Carex longerostrata* C. A. MEYER ト同一カ否カデアル。若シソレガ單ニ匍枝ノ點ニノミニ於テ *Carex tenuistachya* NAKAI ト異リ他ノ點ニ於テハ全ク一致スルモノトスレバ

コレハ又別ニ名ヲ命ズベキ新ナル植物デアツテ *Carex tenuistachya* NAKAI ノ1變種トシテ分タルベキモノデハナカラウカト思フ。然シ此問題ハ第二段ノモノデ私ハ玆ニ *Carex longerostrata* C. A. MEYER ト *Carex tenuistachya* NAKAI トガ全クノ別種デアル事ヲ主張スルニ止メテ置ク。

1) OHWI in Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University ser. B. VI. 5. (Art. 7) p. 246 (1931).

2) NAKAI in Tokyo Botanical Magazine XXXVI. p. 127 (1922).

3) AKIYAMA in the Journal of the Faculty of Science, the Hokkaido Imperial University ser. 5. II. 1. p. 205 (1932).

4) KITAGAWA in Tokyo Botanical Magazine XLVIII. p. 24 (1934).

5) OHWI in Acta Phytotaxonomica et Geobotanica IV. p. p. 43 (1935).

（北川政夫）

○おほあかばなノ新產地

おほあかばな (*Epilobium hirsutum* L.) ハ從來歐洲ヨリ「シベリア」ヲ經テ朝鮮マデ分布スル事ガ知ラレテ居タ。本州デハ佐渡島ニ產スルト昭和九年ニ報告サレタケレドモ本島ニ產スル記錄ハマダナイ樣デアル。所ガ溝井正人氏ハ昭和九年八月十三日福島縣耶麻郡川上溫泉ニテ採集サレタ。日本產ノあかばな屬デハ恐ラクやなぎらん (*E. angustifolium* L.) ニ次グ大形ナ花ヲ開ク種類デ徑 2cm 許アル。溝井氏ノ標品デハ全體ノ大キサヲ知ル事ハ出來ナイガ歐洲產ノ標本ヤ記載ヨリスレバ1米餘ニモ達スルモノデアル。寫眞ニ見ル樣ニ葉緣ハ銳齒芽ヲナシ、莖葉、蒴等ニ顯著ナ綿毛ガアル。

北米ニテハ雜草化シテ居ルラシイガ稀ニ栽培サレテ居ルト云フ。岩代產ノモノモ或ハ輸入種デハナイカト考ヘラレルが分布上日本ニダツテアツテヨイワケデアル。

寫眞ハ溝井氏ノ採品ヲ寫シタモノ、此ノ標本ハ科學博物館ニ保存シテアル。　（奥山春季）